

ハンドブック ワンポイント レッスン

知っておきたい規則とルール

Question

先日の高体連の公式大会で起きたことで質問します。

相手から前衛側（逆クロスの向き）に打たれたサービスがサービスラインとサービスセンターラインの交差部分より数センチ後衛側（レシーブの順番ではないプレーヤー側）のサービスライン上に落ちました（ように見えました）。ハンドブックのアンパイヤーの判定区分図でいうCとセンターマークSの間から打たれたサービスがFHのラインにのったのではなく、EMの部分（Mの位置にきわめて近いところ）に落下したときに、正式な判定の権限を持つのは、サービスセンターラインに対して正しいサービスコートに入らなかったのだから、正審が判定すべきでしょうか。それとも、サービスラインの線上だから副審の判定区分でしょうか。もし、ラインに触れていなかったら、正審の区分だと思えますが。ちなみに、このときの審判をした生徒の判定は、「ラインに当たったからインです」となりました。サービスセンターラインに対して、正しいサービスコートに入らなかったのだから、正審の判定区分ではないですか、と、試合をしていた選手も質問をしましたが、「副審がラインに当たったからインと言っている」という返事でした。この判定に従って、このあとプレーを続けました。

お尋ねしたいのは、審判の対応云々ではなく、判定の権限がどちらにあるかを確認したいのです。

Answer

サービス時の判定ではサービスセンターラインの判定区分は正審です。特にサービスセンターラインとサービスラインの交差する付近の判定は正・副審で連携を密にして副審は正審の判定区分を侵さないようにしましょう。

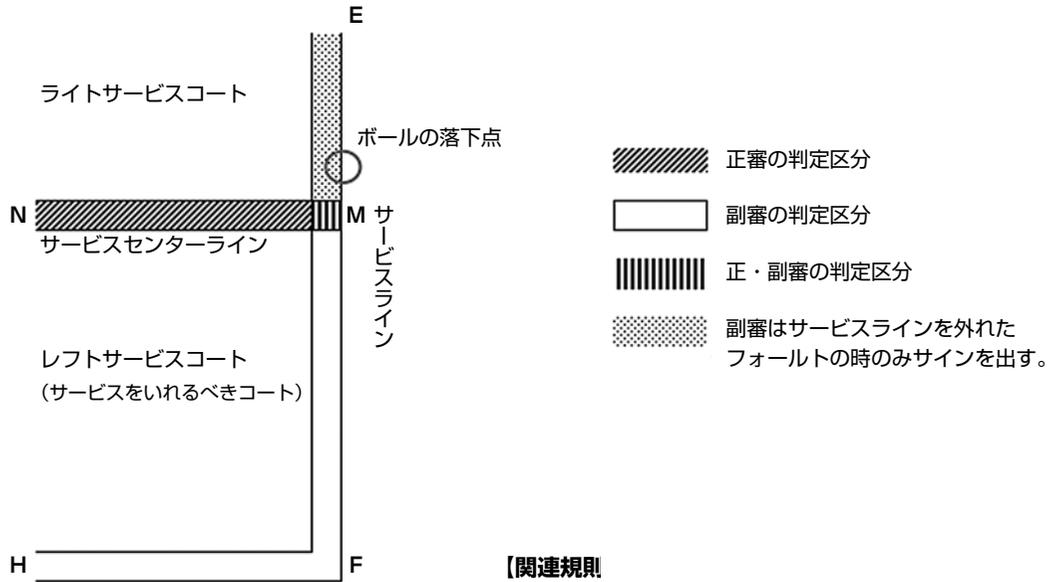
レフトサービスコートへのサービスの場合、副審（Y側が副審）の判定区分はハンドブックの付図でEFとFHですが、今回のご質問はEMの部分（Mの位置にきわめて近いところ）に落下し、サービスライン上に落ちた（ように見えた）サービスですので、副審の判定区分としては最も判定しにくい落下点と言えます。副審から見てサービスラインFM上に落ちた場合はインですが、サービスセンターラインよりライトサービスコート側に落下したサービスは正審の判定区分に該当するサービスセンターラインの区分の判定となります。

副審はMFのサービスラインに関してのフォールトの場合を除きサインを出さない方がベターです。

今回の判定はサービスセンターラインに触れているか否かの落下点の判定になりますので明らかに正審の判定区分になります。今回の副審は、サービスがMEのサービスラインに触れていますがインのサインは出さず、正審の権限を侵さず見守り、正審が迷うような時にはアイコンタクト等により正審の判定を補佐する任務が有りますので連携を取る心の準備が必要です。

この度の質問は、アンパイヤーとして大変大切な区画線による判定区分の質問でした。今後、競技規則及び審判規則をよく理解して、その運用を適切に行うようにしましょう。

レフトサービスコートへのサービスの判定



副審の位置

【関連規則】

審判規則第7条 (アンパイヤーの心得) (3) キ、ク

審判規則第8条 (アンパイヤーの判定区分)

ジュニア審判マニュアル

審判規則について 1. アンパイヤーの任務と心得 (14)、(15)

2. アンパイヤーの判定区分 (1)